

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 医療法人社団淳彩会 永山循環器科クリニック.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172902389-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療法人でありクリニックが隣接されている為、受診しやすく医師と24時間連絡が取れる。・施設長が看護師である為 常時相談することができる等 医療面での安心が大きい。・医師・看護師の協力が得られやすい為 看取り介護に積極的に取り組むことができている。・町内会に参加しており、町内会活動に参加したり 運営推進会議の委員になって頂き運営に関して貴重な意見を頂いたり 避難訓練へのご協力を頂いている。・ホームに併設されている大きなホールがあり地域の方つかって頂いたり歌やダンスの鑑賞 保育園児さんや小学生との交流会を行うなどしている。・永年勤続表彰や5年勤続でディズニーランド 10年勤続でハワイ旅行に連れて行ってもらえる

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内永山地区にあり、国道39からも近く商店やコンビニ、スーパーなども徒歩圏内で、生活環境として整った環境下に位置している。同一敷地内に母体の医療法人、有料老人ホームがあり、密接な協力体制で安心と安全を補っている。当事業所の優れている点は、まず医療体制の充実が挙げられる。母体医療機関が隣接しているため、24時間オンコール体制で医師や看護師が対応できるため、利用者や家族だけではなく介護員にとっても絶対的信頼となっている。次に良質な介護の継続を指向する法人の努力も明記したい。法人は働きやすい現場を目指し、永年表彰制度も取り入れながら勤務の継続化に取り組んでいるが、身体に無理をしない介護に心がけており、開設の2005年から前傾姿勢支持テーブルを全トイレに取り入れ、また浴室は大きく、車いすも可能なリフトを両ユニットに導入するなど、利用者と介護者を守る経営姿勢を強く打ち出している。それに応える介護側の熱意にも触れておきたい。施設長、管理者を中心に自己評価作業を推し進め、目標達成計画は基本の徹底から身近な接遇まで網羅し、介護サービスの向上に努めている。当事業所「グループホームせせらぎの里」の今後にも、一層期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62) regarding staff, user satisfaction, and service quality.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を理念の中に取り入れてあり、毎朝就業前に勤務者全員で唱和し周知している。	二年前に理念を職員全員で検討して見直し、地域交流を取り入れた理念となっており、実践に活かせるよう、就業開始時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在コロナの関係で直接の交流は控えているが、町内会に加入し資源回収等地域の取り組みに協力している。また、盲導犬協会に慰問にきて頂いたり近所の幼稚園との付き合いで運動会のプログラムを頂いたり交流している。	開設以来15年が経過し、母体クリニックと共に地域での認識は広まり定着している。同一敷地の有料老人ホーム内に地域交流室を設け、地域の団体やサークルに無償で貸し出し、好評を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで町内の方へ認知症についてのお話をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナの関係で4月以降開催出来ない。	運営推進会議は包括、家族、町内会役員の参加を得て2ヶ月毎の定期に開催されている。行事の説明等の他、事故やヒヤリハットまで報告され、開かれた事業所としてサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議録は事業所内に閲覧として公表されているが、運営推進会議の特性と意義を踏まえ、議事録を全利用者宅に送付し、事業内容の周知と認知症介護の理解に繋げるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター様には運営推進会議に参加していただいている。旭川指導監査課様には運営推進会議の報告をしており協力関係を築くよう努めている	制度の解釈や運営について適時指導を受け、介護保険の更新や区分変更の申請時に各種情報も交換しながら、信頼性の高い関係継続に努めており、日頃からの協力体制を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての疑問などを職員間で意見の交換を行っている。	以前から活動していた虐待防止委員会を再編して新たに指針を定め、2ヶ月毎に委員会を開催している。議事については現状の介護内容の検証や事例検討等々で、内容については、都度職員に周知徹底するなど、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会を開催しどのような事が虐待にあたるのか職員間で検討し虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	休憩室やわかりやすい所に資料パンフレット等が置いてあり調べたり学んだり出来る様配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より重要事項説明書、契約書、各種同意書の説明を行い、理解納得していただける様丁寧説明させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や苦情相談窓口表を施設内の分かりやすい所に掲示している。	利用者の様子を毎月お便りとしてまとめ、利用者宅に送っている。意見や苦情などご意見箱を設置し、また来訪時には話しやすい雰囲気の中で聴取し、サービス向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員の意見や提案を求め運営に反映させるよう努めている。	毎月の会議や申し送りで職員の提案や意見は聞き取っており、また必要に応じて年に複数回は管理者や施設長との職員面談の場も設定し、忌憚のない意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業はほとんどなく、希望休・有休をとりやすい環境である。5年・10年勤務者には旅行のプレゼントもありやりがいを持って働ける環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年代表者からは積極的に研修会への参加の声かけがあるが今年はコロナ以降の研修会が全て中止になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者がグループホーム協会の運営に関わっており、研修会・交流会等に積極的に参加できる環境である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の面談、入所後に本人と話し、要望・不安な事に耳を傾け、信頼関係を築き安心して生活出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族との面談を行い入居者様に対してどのような生活をしてほしいのか希望・要望・不安なことがあれば話して頂き関係作りに努め信頼を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や他の施設での状態の情報を事前に頂きその時に必要な対応を職員で話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事・できそうな事を職員全体で話し合いできそうな事にも職員の見守りも元で行って頂きやりがいを見つけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を来所された際はもちろん電話などでも報告し、希望や要望をお聞きしながら本人・家族・職員間のコミュニケーションを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は外出はできない状態ではあるが、電話や手紙で連絡をしていただき良い関係が続くよう支援している。	顔馴染みの人の訪問は、ゆっくり過ごせるよう配慮し、遠距離の外出や墓参等は家族と協力しあい支援しており、昔からの馴染みの関係性が閉ざされない、途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が全員顔を合わせる事ができるよう毎食時・ラジオ体操・おやつの時間に参加していただいたり、レクリエーションを行って共通の話題で楽しんで頂き孤立しない様職員が間に入り関係を築くよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様のご家族様から相談を頂いた時には必要に応じて対応させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動を介護日誌に記録し職員全員で情報を共有している。また、一人一人の意向を聞き取り希望にそうよう努めている。	利用者の日々を支えながら、思いや願い、希望と意向、好き嫌いを把握している。重篤な状態等で意思疎通が困難な状態でも、仕草や表情などから、また生活歴等から本人本位の生活になるように支援に臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・フェイスシートに職員全体が目を通し生活歴、日々の暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の状態を介護日誌に記録しており変化等がみられた時にはカンファレンスを行い現状把握に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族・医師・看護師等意見を参考にし介護計画を作成。変化があれば現状に合ったケアプランを作成している。	介護計画は家族や医療の意見を踏まえて具体的に立てられ、介護日誌にその進捗度が日々記載されるよう工夫されており、また病変等があった時は至急に変更し、現実に即した介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、ケアプランチェック表、モニタリングを確認し職員間で情報共有を行い介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に応じその時々様子に合ったサービスが出来る様努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーや訪問歯科等本人に合った地域資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は永山循環器科クリニックであり、24時間体制で診療してくれている。本人の希望や主治医の指示があれば他の専門病院での受診も行っている。	受診の支援は、母体医療機関の利用者がほとんどで、主治医は毎日事業所を訪れており、24時間主治医の観察下の状態で、訪看も含め安心できる医療体制で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護を実施し入居者の状態を報告し相談アドバイスを頂いており、処置が必要な場合すぐに対応してもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長、管理者が入院先と連絡調整を行い情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期の在り方についてご本人やご家族様の希望をお聞きしている。ホームで出来る事を説明し理解していただき方針を共有しながらチームで支援している。	終末期の看取り介護について、どのような希望にも沿える体制で臨んでおり、利用者の全員がここで最後を終えたいと希望している。年間1～2名の看取りを実施してきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回AEDの使い方・人口呼吸・心臓マッサージの講習を受け学習している。今年はコロナの関係で開催できていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っており、町内の連絡網を作成している。 今年はコロナの関係で規模を縮小して行っている。	年に2回、消防署の指導により避難訓練を、町内の連絡網に基づいて、地域住民の協力も得て実施している。避難先は5階建母体法人ビルを想定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を施設の理念に掲げており、2ヶ月毎に虐待防止委員会を開き言葉かけや対応についてカンファレンスを行っている。	人格の尊重は事業所理念であり、また礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いや応接、プライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で本人の思いや希望を聞き入れ、出来るだけ希望に沿えるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが個々に過ごされる人もいれば様々である。出来るだけ希望に沿えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服等は本人に選んで頂いている。 訪問美容を利用して身だしなみを整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食職員と入居者様が一緒に食事をとり会話を楽しんでいる。下膳、茶わん拭き等出来る事は協力し合いながら行っている。	献立は栄養士が利用者の希望や好みなどを考慮して立てており、調理や後片付けには利用者のお手伝いもお願いし、職員も同席、同食しながら、いつも楽しい食卓になるよう、努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が作成し管理している。食事量水分量は毎食記録し職員全員で情報を共有している。入居者様がよりよい状態を保てるようその時に応じた支援を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者様ができないことを援助しながら口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄の記録をつけ排泄リズムを把握する様努め声かけや介助で失禁のない生活を送ってもらえるように支援している。	排泄はトイレで行う事を基本に取り組んでおり、どのような形態であろうともトイレに誘導している。また乳製品や軽い運動も交えて、自然な排泄になるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物、水分の摂取が適切が職員全員で気を配っている。排便を記録し便秘が長引かない様医師の指示の元対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様が楽しみに入浴出来る様介助しているが、体調不良や拒否があれば時間や曜日を変更してその都度楽しくは入れる様支援している。	週に4日、お風呂を用意し、各利用者が毎週2回以上入れるよう努めている。浴室の備え付けリフトを活用し、不自由な利用者も筋力の弱い介護員も安心できる入浴支援となっている。また入浴拒否者には無理強いすることなく、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人一人一人の生活習慣に出来るだけ浴うように全個室で安心して休息をとり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人一人の使用している薬の用法・用量を把握し、変更時は記録に残し全員で理解し確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の希望を考慮しながら楽しい行事を計画し気分転換を図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出は控えているので、屋内でのレクリエーションを計画し入居者様に楽しんで頂くよう努めている。	季節のドライブの他に散歩を日課として出歩くように努め、ご近所のお庭を拝見したり、買い物に出かけたり、体調や天候を考慮・相談しながら、閉じこもらない介護に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理できない方は施設で管理し入居者様が必要な時はいつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話の希望があった時には施設の電話を無料で利用していただいている。手紙の希望がある方には管理者がお預かりして投函し支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節に応じた飾り付けをしたり整理・整頓・清潔に努め居心地の良い空間になるように心掛けている。	居間兼食堂は大きな窓を有し、採光に富み明るい雰囲気演出している。温度や湿度の管理も適切で、装飾類も華美を避け、季節の花々を多く取り込み、落ち着いた居心地のいい共同空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂では好きなところに座って入居者様同士が会話を楽しめるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室個室になっており馴染みの家具や家族の写真などで家庭的な居心地の良い居室となっており利用者様が安心して過ごせる空間になっている。	居室には、昔から親しんだタンスや椅子がおかれており、温度や湿度も適正な環境の中で、壁には家族写真も見られるなど、自分の部屋として過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており廊下には手すりが付いている。トイレ3か所に高さの違う便器を設置。食堂の椅子は高さの違うものや肘掛のある物ないものがあり一人一人に合うよう工夫している。		